



令和6年9月19日(木)～ 9月20日(金)

Zoomによるオンライン形式で、参加者の職場において開催しました。

【目的】

研修企画・実施スタッフ：

北方生物圏フィールド科学センター 佐藤 浩幸*2, 低温科学研究所 高塚 徹*1,2,
遺伝子病制御研究所 石川 晋*1, 農学研究院 阿部 歩*1,
北方生物圏フィールド科学センター 増茂 弘規*1

本学の国際化への対応ならびに技術職員のスキルアップ及び資質向上の観点から、技術職員の英語対応力を向上させ、本学の教育研究支援機能の強化を図る

【実習】Zoom参加による「体験型英語研修」

講師：名古屋大学博物館 特任助教 梅村 綾子

研修プログラム：Aコース

・本日の目標（5分） ・ミニ講座（25分） ・ロールプレイング（45分） ・まとめ（15分）

講師による、実際の業務で英語を使用する場面を想定した実践的・体験的なスピーキングのプログラムに沿って実施しました。ロールプレイングは1名が技術職員役、もう1名が留学生役となり、技術職員役は、実際に業務で使用している資料（例：担当装置の日本語取説）の内容を相手に英語で伝える練習を行い、留学生役は、技術職員役の説明に対して英語で質問し、終了後に技術職員役の話したことをまとめて英語で説明するという内容で行われました。研修中は基本的に全て英語で会話することを目標としました。

研修プログラム：Bコース

・本日の目標・自己紹介（15分） ・KYTを使った指摘・提案・意見の述べ方の練習（60分）
・まとめ（15分）

KYT（危険予知訓練）の画像を利用し、指摘・提案・意見の述べ方を学び、指摘・提案の仕方などのレクチャーを受けた後、実践としてKYTの画像（実験等の絵や写真）を見ながら作業に潜む危険を英語で指摘し、改善策の提案をした後、指摘箇所について自分の意見を英語で述べる練習をいしました。初心者の方が対象ですが、中級者以上の方も受講可能としました。

受講者の感想

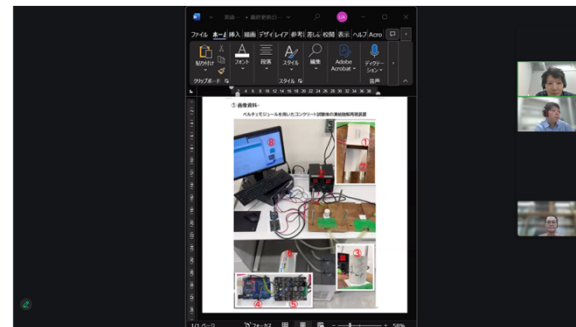
話しやすい雰囲気、リスニング、スピーキングの良い練習になった(Aコース)、「講師の説明で、自分が話すときに何を間違っているのかが分かり、気を付けるポイントが学べてよかった(Aコース)」、「日本語のニュアンスを英語でどう伝えるか、様々な言い回しがあることを知り、勉強になった。(Bコース)」、「「S+V」や「S+V+O」などの文の作り方を思い出せたので、長い文章で喋れなくても、これらを意識して英語を話そうと思った(Bコース)」などの感想が寄せられました。今回の体験型英語研修が、受講者の今後の業務に活かされていくことが期待されます。また、研修実施スタッフからは、昨年の体験型英語研修実施経験を活かして準備したことで、昨年度に比べ、より良い研修になったという感想が聞かれました。

本研修は北大時報令和6年10月号（全学ニュースP7）に掲載されました

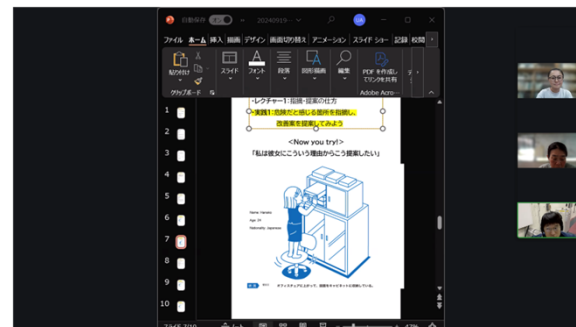
参加者：Aコース 6名 Bコース 2名 計8名（研修実施スタッフを除く）

*1:SD実施専門部会スキルアップ検討チーム

*2:研究支援人材育成プログラムマルチスキル人材育成プロジェクト



オンラインによるロールプレイングの様子



オンラインによるKYT（危険予知訓練）の画像を利用した、指摘・提案・意見の述べ方の練習

研究支援人材育成プログラム実施専門部会 マルチスキル人材育成プロジェクト

実施専門部会長：	岡 征子	創成研究機構
担当：	高塚 徹	低温科学研究所
委員：	佐藤 浩幸	北方生物圏フィールド科学センター
委員：	遠藤 礼暁	電子科学研究所
委員：	佐藤 陽亮	低温科学研究所